

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)大阪枚方物流センター 新築工事	階数	地上3F、地下1F
建設地	大阪府枚方市大字穂谷	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	150人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年6月 予定	評価の実施日	2024年10月1日
敷地面積	10,088 m ²	作成者	日本建設(株)大阪支店 高 大 栄
建築面積	5,779 m ²	確認日	2024年10月1日
延床面積	19,647 m ²	確認者	日本建設(株)大阪支店 高木 康司



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.8

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	大阪府枚方市に建設される倉庫+事務所の計画である。内装材には全面的にF☆☆☆☆を採用、事務所内に適切な照明配置をする等、執務環境に配慮しつつ、耐用年数の長い材料の採用、高効率の機器を採用することで、省エネ性能にも配慮している。	
Q1 室内環境	内装材には全面的にF☆☆☆☆を採用し、また全館禁煙とすることで、空気室環境に配慮している。	耐用年数の長い外装、内装、配管材料を採用し建物の維持管理に配慮している。また、階高や壁長さにゆとりのある計画とし、機能性に配慮している。
Q2 サービス性能		景観届が出されており、植栽による良好な景観の形成、外観P-A検証を行う等、まちなみに配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)		
LR1 エネルギー	LEDなど高効率の機器を採用することで、BEI値の低下に貢献している。	節水器具の採用や再利用できるユニット部材の採用、使用材料を削減することで、省資源に配慮している。
LR2 資源・マテリアル		燃焼機器は使用せず、大気汚染防止に配慮している。また、荷捌用車両の駐車施設を適切に配置し、車両出入口の幅等に配慮することで、周辺道路の渋滞緩和に寄与している。
LR3 敷地外環境		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)大阪枚方物流センター 新築工事					
建設地		大阪府枚方市大字穂谷					
用途/区分		工場 事務所					
【評価結果】	CASBEE 総合評価	★★★★☆				A	
①	CO2削減	★★★★☆				4	
②	みどり・ヒート アイランド対策	★★★☆☆				2	
③	断熱性能	★★★★★				5	
	<small>建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル</small>	<small>住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分</small>	評価対象外			評価対象外	
④	エネルギー消費性能	★★★★★				5	
	<small>建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル</small>	<small>住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分</small>	評価対象外			評価対象外	
	<small>非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分</small>	★★★★☆				5	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
	利用施設の導入状況	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない	
【評価項目】							
項目	評価内容					スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					3.8	4
② みどり・ヒートアイランド対策							
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					2.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上					2.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2. 2 温熱環境悪化の改善					3.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制					5.0	5
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化					5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用					3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	報告しない
その他							
先進的技術の導入	技術の名称			考慮事項			
特に配慮した事項							